

修士論文（要旨）

2015年1月

中国の大学における日本語学習者の配慮表現の使用について  
－「ちょっと」「けど」「～と思う」を中心に－

指導 堀口純子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

213J3003

閻 建磊

Master's Thesis (Abstract)  
January 2015

The Use of Expressions of Consideration by Chinese Learners of Japanese Language  
: Focusing on "Chotto," "Kedo," and "To Omou"

KenRai En  
213J3003

Master's Program in Japanese Language Education  
Graduate School of Language Education  
J.F.Oberlin University  
Thesis Supervisor:Sumiko Horiguchi

## 目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究動機	1
1.3	研究対象	2
1.4	研究目的	2
第2章	本研究の定義	2
2.1	「配慮」に関する定義	2
2.2	配慮表現の定義	3
2.3	本研究の定義	3
第3章	先行研究	4
3.1	日本語の配慮表現に関する研究	4
3.2	教科書と日本語教育の場における配慮表現の指導に関する研究	4
3.3	配慮表現としての「ちょっと」、「けど」、「と思う」に関する研究	4
3.4	本研究の位置づけ	5
第4章	調査	5
4.1	アンケート調査	5
4.2	フォローアップインタビュー	7
第5章		8
5.1	日本語母語話者の選択状況と分析	8
5.2	中国人日本語学習者の選択状況と分析	21
第6章	協力者における選択基準形成の要因について（教材分析）	36
6.1	教科書の中の「ちょっと」に関する扱い	36
6.2	教科書の中の「けど」に関する扱い	38
6.3	教科書の中の「~と思う」に関する扱い	39
6.4	まとめ	41
第7章	本研究のまとめ及び今後の課題	41
7.1	本研究のまとめ	41
7.2	今後の課題	43

## 参考文献

【キーワード】 配慮表現 ちょっと けど と思う 中国の大学における日本語学習者  
日本語母語話者 教科書

## 要旨

本稿では、中国人日本語学習者が困難を感じる言語表現の中の「配慮表現」である「ちょっと」「けど」「～と思う」を研究対象とした。また、中国の大学における学習者が三つの配慮表現を用いるときの特徴とそれを形成する要因を追究するために、リサーチクエスチョンを

- (1)日本語母語話者の使用実態と中国における日本語学習者の使用状況はそれぞれどうであるか
- (2)中国の大学における日本語学習者の使用状況と日本語母語話者の上記表現使用における相違点は何か
- (3)中国の大学における日本語学習者の使用状況の形成要因は何か

に設定し、日本語母語話者と中国の大学における日本語学習者を対象としたアンケート調査及び中国の大学における二人の日本語学習者を対象としたフォローアップインタビューを行い、日本語母語話者の使用実態と中国における日本語学習者の使用状況を明らかにした。その上で、中国の大学における日本語学習者が使用したメイン教科書を調査し、分析結果に基づき、考察を行った。

まず、日本語母語話者の上記配慮表現における使用実態を明らかにするために、日本語母語話者を対象としたアンケート調査を行った。調査の目的は日本語母語話者が上記の配慮表現を使用する時の選択基準は何であるかを明らかにすることであった。調査の結果、日本語母語話者は場面や人間関係を考慮した上で、相手への働きかけの強さ、丁寧度、トラブルの有無などの要素を選択基準にしたことが分かった。

次に、中国における日本語学習者の使用状況を把握するために、アンケート調査とフォローアップインタビューを行った。アンケート調査とフォローアップインタビューのデータを分析し、全体の使用傾向と選択基準を明らかにした。その結果、中国における日本語学習者は接続助詞の逆接用法、自身の経験、中国語訳などを選択基準にする傾向が見られた。日本語母語話者との対照分析を通じて、「ちょっと」の選択基準を除き、日本語母語話者とは選択基準が大幅に異なることが分かった。特に、場面と人間関係把握の混乱、また、「よ」と「かもしれない」の誤用などが配慮表現の使用に影響を与えていることがわかった。

最後に、中国の大学における日本語学習者の使用状況の形成要因を明らかにするため、日本語学習者が使用したメイン教科書を調査した。その結果、上記表現は教科書に既に扱われているものの、学習者はその用法をしっかりと把握していないことが分かった。要因としては、教科書の解説と例文の不足が考えられる。

本研究では、アンケート調査とフォローアップインタビューを行い、日本語母語話者との対照分析を通じて、日中の上記配慮表現における使用実態との相違点を明らかにした。そして、教科書の調査を通じて、形成要因を追究した。

それにより、中国人日本語学習者の配慮表現に関する使用状況を一把握することができた。アンケート調査とフォローアップインタビューの結果から、アンケート調査に出る日常生活の

各場面がうまく対応できる中国人日本語学習者が少ないとは言える。上記表現の配慮用法が教科書に載せられているにも関わらず、中国人日本語学習者が配慮用法に関する認識ができていないのは学習者が授業で教科書から知識を学んだ後、即時に運用できないのは1つの要因として考えられる。つまり、インプットした知識が、即時にアウトプットできないのである。この問題について、教科書その他、カリキュラム作成、及び教師資源といった三つの要因を分析した。授業内容・目的の設計や教師能力などの要素で教育場で配慮表現の教育の難しさを明らかにした。

「配慮表現」が、日本人の心を読み取る重要な表現であり、学習者のコミュニケーション能力の向上、人間関係の維持にも大きな影響を与えるので、教育場で重点として取り上げる必要があると考えられる。

## 参考文献

- 小野正樹 (2005) 『日本語態度動詞の情報構造』 ひつじ書房 p. 135
- 黒目晶子 (2010) 「従属節「が」「けれども」「けれど」「けど」を含む複文における丁寧形と普通形の表われ方ー日本語母語話者による談話資料の場合ー」 文教国文学 54 pp. 24-37
- 佐内かおる (2013) 「初級日本語教科書における会話文の調査と小考ー配慮表現を中心としてー」 日本語と日本教育 (41) pp. 145-159
- 三枝令子 (2007) 「話し言葉における「が」「けど」類の用法」 一橋大学留学生センター紀要 第10号 pp. 11-27
- 佐藤勢紀子 (1993) 「言いさし「・・・が/けど」の機能ービデオ教材の分析を通じて」 東北大学留学生センター紀要 第1号 pp. 39-48
- 塩田雄大 (2012) 「現代人の言語行動における配慮表現ー言語行動に関する調査からー」 放送研究と調査 62(7) pp. 66-83
- 曹英南 (2000) 「「けど」で終わる発話の語用論的研究ー「言い終わり」の「けど」を中心に」 言語文化と日本語教育 (19) pp. 89-100
- 丁琳 (2012) 「「丁寧化百分率」から見る接続助詞「が」「けど」類の丁寧さと従属度」 比較文化研究 104 pp. 125 - 135
- 丁琳 (2013) 「OPI形式のインタビューデータから見る接続助詞「が」「けど」類節のモダリティ表現ー職場会話との比較」 知性と創造 pp. 135-147
- 鄭栄愛 (2010a) 「「…けど」の言い出しの配慮表現について」 日本文化論集 第24号 pp. 37-56
- 鄭栄愛 (2012) 「会話文における「ちょっと」の配慮表現について」 研究会報告 (31) pp. 17-41
- テュシェ・シモン (2006) 「文末表現「と思う」の用法と話し手の役割」 日本語学論集 第2号 pp. 28-40
- 森山卓郎 (1992) 「文末思考動詞「思う」をめぐってー文の意味としての主観性・客観性ー」 日本語学 11-9 pp. 105-116
- 藤原ら (2009) 「日本語教育における配慮表現に関わる表現の指導」 北海道大学大学院教育学研究院紀要 第108号 pp. 85-98
- 牧原功 (2005) 「談話における「ちょっと」の機能」 群馬大学留学生センター論文集 (5) pp. 1-23
- 三原嘉子 (1995) 「接続助詞けれどモの終助詞的用法に関する一考察」 横浜国立大学留学生センター紀要 (2) pp. 79 - 89
- 宮崎和人 (2001) 「動詞「思う」のモーダルな用法について」 現代日本語研究 (8) pp. 111-136
- 守屋三千代 (2004) 「日本語の配慮表現ー文法構造からのアプローチー」 日本語日本文学 (14) pp. 1-16
- 彭飛 (2005) 『日本語の「配慮表現」に関する研究ー中国語との比較研究における諸問題ー』 和泉書院
- 山岡政紀 (2004) 「日本語における配慮表現研究の現状」 日本語日本文学 (14) pp. 17-39
- 山口和代 (2006) 「留学生と日本人学生の日本語表現ー「ちょっと」と「けど」を中心に」 アカデミア. 人文・社会科学 通号 83 pp. 371-385
- 参考 URL  
国際交流基金 <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2013/china.html> (2014年6月25日最終検索)